

下根ヶ丘行政区の「たまり場の会」について

平成 27 年 12 月 1 日
松ヶ丘行政区 鈴木 朗



11 月 23-29 日に下根ヶ丘行政区の「下根ヶ丘みんなのビエンナーレ展」が開催され、観てきました。書、絵画、彫刻、俳句、短歌、フラワーアート、手芸、陶芸、盆栽、子どもの作品などの展示、楽器演奏、合唱等々幅広い内容の文化祭でした。自治会と自治会館の常時開放を請け負っているボランティアの「たまり場の会」の共催で、たまり場の会が中心となって企画・準備・運営しました。

生まれて 1 年半しか経っていない地域ボランティア組織がどのようにして地域上げての文化祭を実現したのか、たまり場の会のまとめ役の方に聞きました。



「下根ヶ丘みんなのビエンナーレ展」を創り上げた皆さん。

展示会開催に当たり開催セレモニー、「よし、やるぞ!」と気持ちを一つにしました。

平成 26 年 4 月に自治会館をたまり場として常時無料開放するに当たり、募集した会館管理ボランティアが結成したのが「たまり場の会」、メンバーは現在 26 人です。



和歌に短歌、盆栽に和裁、素晴らしい会場風景



絵画にフラワーアートも

昨年、たまり場が発足したとき会館を定期利用していたグループは 3 つだけでしたが、今では 15 に増えました。1 年半で利用グループがこんなに増えたのは、1 つは会館の無料開放で、新しいグループが次々に生まれたこと、もう 1 つは他行政区の会館を利用していたグループが、自分たちの会館を利用するようになったこと、さらに、たまり場の会がグループ結成や会館利用を促して歩いたこと、が大きな要因とのことでした。



楽しさいっぱいの手芸



書と陶芸作品

たまり場の会は月1回定例会を開いているということですが、今年7月の定例会で「会館で何かイベントをしよう」ということになり、開催期間1週間、出展60人、110点という堂々たる文化祭が実現しました。



三味線の音色に合わせて民謡を披露



他行政区からオカリナ演奏の特別出演

たまり場の会は当初の想定をはるかに超えるパワーを持つに至ったのです。たまり場の会が自治会組織でなく、ボランティアの会であることが良かったのかもしれませんが。たまり場の会の思いは「会館を利用して自分たちの生活をどう楽しくするか」に重きを置いていることが強く感じられます。この思いから地域の人たちの文化芸術創作活動を全て掘り起こすような、下根ヶ丘の人々の輝いている部分を一望できるようなイベントが生まれたのだと思います。毎月の定例会と年3回の懇親会、それを通して互いの胸の内が分かるにつれて、各人の「思い」がつながり、しっかりとした方向性を持ったエネルギーに変わっていったのです。



ガマの油の口上大好評でした



澁刺女性陣のかっぱ体操

2年後に向けて早くも動き出しています。地域を輝かせ、自分をも輝かせる人たちの地域活動が、下根ヶ丘行政区にまた1つ育ちました。